私立保育園のあゆみ

私立保育園は、戦後、公立保育園が数か所しかない時代から今日に至るまで保育行政のうえで重要な役割を担ってきている。また、各保育園の設立趣旨などにより、保育に欠ける乳幼児の健全育成と共通の目的を持ちながらも、独自の保育を展開してきている。

その私立保育園の歩みは、昭和二十五年に「土筆保育園」「青山保育園」「みなと保育園」（後述の「みなと保育園」とは異なる）の三園があったと記録されており、その入所児童数は、「土筆保育園」が三八名、「みなと保育園」が二九名、「青山保育園」が四六名であった。

また、その当時、詳細は定かではないが「浜松町保育園」があった。

公立保育園の増設がまだ進まない昭和二十年代後半から三十年代前半にかけて、保育需要に応えるべく二十九年五月に「若松保育園」、三十一年七月に「心光保育園」、三十二年十一月に「愛星保育園」と次々と私立保育園が誕生した。

就労婦人の増大などにより、保育需要が多様化してくる昭和四十四年二月、認可保育所として初めて産休明け保育をする「みつばち保育園」が誕生した。その後、昭和五十二年四月、「みなと保育園」が新設された。

昭和五十九年四月現在港区内の私立保育園としては、「若松保育園」「愛星保育園」「みつばち保育園」、「みなと保育園」の四園が、保育に欠ける乳幼児の健全育成のため保育園の運営を行っている。

若松保育園

昭和二十九年五月、絶江坂の中ほど現南麻布三丁目一〇番に、私立「若松保育園」が新設された。創設者は若松

寺住職藤原清光氏であった。開園時には、児童定数は三歳以上児四〇名、職員は園長ほか保母二名、用務員、木造平屋建一二七㎡の園舎で、保育室二、遊戯室一、調理室一、事務室などを備えた園庭の広い開放的な保育園であった。時代の要請にこたえて児童定数を増やし、現在の児童定数は七二名で、その内訳は、二歳児が六名、三歳児が二五名、四歳以上児四一名である。

愛星保育園

昭和三十二年十一月、明治学院大学前の現高輪一丁目二七番に私立「愛星保育園」が新設された。創設者は、社会福祉法人「東京ヴィンセンチオ・ア・パウロ会」代表者坂本純氏であった。開園時には、児童定数は二歳未満児五名、三歳以上児四五名、職員は、園長ほか保母三名、調理員、用務員、木造モルタル二階建二七五㎡の園舎で、保育室二、乳児室一、調理室一、医務室一、事務室などを備えた陽当たりの良い保育園であった。現在の児童定数は、開設時と変わらず五〇名であるが、その内訳は、一歳児五名、二歳児一〇名、三歳児一五名、四歳以上児二〇名になっている。

みつばち保育園

昭和四十年八月、聖心女子学院の裏、白金四丁目七番に地域の働く母親自らの手で私立「みつばち保育園」が開設された。昭和四十四年二月認可保育所となり、その創設代表者は窪田みつ氏であった。認可保育所となった当時の児童定数は二歳未満児一一名、二歳児一九名、職員は園長ほか保母五名、調理員、用務員、木造二階建一〇三㎡の園舎で、保育室一、乳児室二、医務室一などを備えた規模の小さい保育園であった。現在の児童定数は、開設当時と変わらず三〇名で、その内訳は、零歳児六名、一歳児八名、二歳児一六名である。

みなと保育園

昭和五十二年四月、魚らん坂近くの高台、高輪一丁目六番に私立「みなと保育園」が新設された。創設者は、社

会福祉法人「恩賜財団東京同胞援護会」代表者高山照英氏であった。開園時には、児童定数は二歳未満児一〇名、二歳児一二名、三歳以上児四八名、職員は園長のほか保母七名、栄養士、調理員、用務員、鉄筋コンクリート造二階建四四一㎡の園舎で、保育室五、乳児室一、調理室一、事務室など設備の整った保育園であった。現在の児童定数は、開設当時と変わらず七〇名で、その内訳は、一歳児一〇名、二歳児一二名、三歳児一六名、四歳以上児三二名である。

青山保育園

青山保育園は、現南青山一丁目一七番に昭和二十年代前半に設立された。木造平屋建の園舎で、保育室二、遊戯室一、給食室一、常直室一を備えた保育園であった。昭和三十五年に閉園になっているが閉園当時の児童定数は六〇名であった。

浜松町保育園

大正七年、「大正婦人会」が、現在の浜松町四丁目一九番に救貧事業の一つとして託児所を開設した。初代園長は、徳川夢声氏の母堂天野なみ氏であった。

戦災で焼失する前は、三歳児から就学前までの児童を希望者全員保育し、戦後昭和二十二年再建されてから幼児四〇名となった。職員は、小島人園長夫人が保母有資格者のため主任保母となり、その他保母二名の計四名で運営をした。保育室は二部屋で、遊戯などをする時は机、椅子を片隅に寄せて行っていた。昭和三十九年ごろに園児数が少なくなったという理由で閉園した。

心光保育園

昭和三十一年七月、赤羽橋付近の現東麻布一丁目に、私立「心光保育園」が設立された。

創設者は、心光院（現　東麻布一丁目一番）の住職戸松学瑛氏であった。しかし、開設準備の過労のためか開園を

目前にして病床に倒れ、子息の戸松啓真氏が急きょ事業継承者となり、開園に至った。開園時には園児三五名、職員は園長のほか保母二名、用務員、木造モルタル平屋建の小規模な保育園であった。この心光保育園でも、時代の要請に応えて収容園児が次第に増加していったが、特に一、二歳児の保育希望が強かったため昭和三十四年に乳児室として心光院乳児室分園を開設した。この年の在園児は乳児を含めて一一四名であった。

心光保育園は、創設八年後の昭和三十九年に港区に移譲されて、区立飯倉保育園となった。

私立保育園の児童定数及び措置児の推移

年　度	施設数	児童定数	措置児数
４０	2	１１０	６７
４１	2	１１０	８０
４２	2	１１０	９４
４３	2	１１５	１１１
４４	3	１４０	１３０
４５	3	１４０	１３７
４６	3	１４０	１３８
４７	3	１４０	１４２
４８	3	１５２	１６５
４９	3	１５２	１６１
５０	3	１５２	１７１
５１	3	１５２	１６６
５２	4	２２２	２２０
５３	4	２２２	２３４
５４	4	２２２	２３１
５５	4	２２２	２３０
５６	4	２２２	２２７
５７	4	２２２	２２６
５８	4	２２２	２２６

昭和３８年度～４４年度は月平均による
昭和４５年からは、4.1現在
ただし、措置児数は管外委託を含み管外受託を含んでいない。

港区私立保育園一覧

（昭和５８年４月１日現在）

区分 / 保育園名	所在地	児童定数					
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	計
若松保育園	南麻布3−10−7	−	−	6	10	56	72
愛星保育園	高輪1−27−40	−	5	10	15	20	50
みつばち保育園	白金4−7−2	6	8	16	−	−	30
みなと保育園	高輪1−6−9	−	10	12	16	32	70
合計		6	23	44	41	108	222

職員数							
園長	保母	保健婦	給食調理	用務	栄養士	嘱託医	計
1	8	0	2	1	−	(1)	12
1	10	0	1	1	−	(1)	13
1	9	(1)	2	1	−	(1)	13
1	9	0	2	1	−	(1)	13
4	36	(1)	7	4	−	(4)	51

（ ）は非常勤